

学校名	大阪府 寝屋川市立第六中学校
学年	3年3組
氏名	榮 翔乃葉

題名 「宝もの」を守るもの
 私には敬愛する祖母がいます。祖父とは、私
 が生まれる少し前に死別し、現在は奥家で一
 人暮らしをしていいます。そんな祖母の心は、こ
 の上ない淋しさと心細さで満ち溢れているに
 違いない。にも関わらず、私たち家族と接す
 る時に見せる屈託のない笑顔がとても穏やか
 で、大好きでした。まだ幼かった私を色々な場所
 へと連れて行ってくれた。電車に乗る時、食

全国納税貯蓄組合連合会・国税庁

事をする時、どんな時も私は大好きな祖母の
 後を付いて回った。私が欲しいと言ったもの
 は、多少高価なものであっても何でも買って
 くれた。そこで私は疑問に思った。
 「お金は大丈夫なの？」
 祖母が就職していないことを知っていた私は、
 何となく気に留めていたことを口にした。そ
 してその時、初めて「年金」という言葉を知
 った。

中学生の「税についての作文」原稿用紙

作品番号	1	2	3	4	合計
337					

ら受給できるもので、祖母は「老齢年金」を
受け取っているそうだが、私が一番印象に残っ
たのは、配布される年金の半分を税金が賄っ
ているという事だ。

税金について意識するようになったのは小
学五年生の頃。消費税が十パーセントに引き
上げられた年だ。それまでは何のためのもの
なのかという事さえ知らなかったが、次第
に税金による支えや助けが存在することを痛
感するようになった。そしてある日、私の父

全国納税貯蓄組合連合会・国税庁

のもとに一本の電話が届いた。私は小学六年
生になつていた。

祖母がコロナウイルスに感染したという。
当時はまだ、マスク着用や不用不急の外出を
控えることが当たり前であり、感染者への振
いも嚴重なものだった。だからこそ、心配で
心配で胸が張り裂けそうだった。そして急い
で電話をかけた。

「はい、い？」

とても非力で、脆弱な声が入る。こみ

上げる涙を飲み込んで容体を伺う。発熱がひ
 どいらしく、自分で食料を用養することまで
 ぎないらしい。だけど祖母はこう続けた。
 「この、ちの心配はせんであえよ。市からの配
 給で何とか助かってんおん。ほんま薄いな。」
 この配給もまた、税金によるものだった。夕
 ニホイル箱い、ばいに敷き詰められていた水
 やイニスタント食品は、どれも生活必需品だ
 た。

全国納税貯蓄組合連合会・国税庁

私にとって、支払うものだった。税金の有
 難さを身にしみて感じた今、私の中で税に村
 する考えも変わった。以前は少し煩わしい
 なびと思っていた課税だが、その税によって
 支えられている。大切な宝物の存在に気付
 くことができた。そんな「宝物」を今度は私
 たちが守っていく。何をすることも後を付いて
 いた私が、頼もしく先頭切って前進できるよ
 うに「税」という名の支援を、これからも続
 けて行こうと思う。

中学生の「税についての作文」原稿用紙